

## 「都幾川の三日月湖(6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

次に1964年(昭和39年)の航空写真を入手した。この頃になると、航空写真技術も進歩し、解像度も上がってきた。まだモノクロだが、それでも河川だけでなく段丘崖、集落、道路、鉄道、それにおおまかな植生や土地利用の様子も読み取れる。

都幾川は、写真中央上よりを、左(西)から右(東)に流れている。現在三日月沼が残っている蛇行Aだけでなく、その下流にB、Cの顕著な蛇行が存在していたこともよくわかる。川の北側(東松山側)はほとんど田んぼのようである。蛇行屈曲部の内側も区画がはっきりしているので、畑か田んぼだったのだろう。まだ桑畑も残っていたかも知れない。現在はA~Cのすべての蛇行は消失し、流路はほぼ直線になっている。

当時は、東上線もまだ単線である。(高坂~東松山間が複線化されたのは昭和43年)都幾川の蛇行とは別に、私が興味を持ったのは、高坂駅から枝分かれし

て延びる線路(写真の記号「あ」)である。駅から枝分かれしていることと、周囲の区画を無視した独特の緩やかなカーブで、線路であることがわかる。

これは、このあたりの丘陵地を露天掘りして、採掘した粘土の輸送用線路である。「日本セメント(株)東松山専用鉄道」と呼ばれ、昭和59年まで貨物列車が走っていた。当時はセメントの原料に、丘陵地の粘土層を利用していたのである。つい最近まで、関越自動車道の高坂SAの先に、鉄道陸橋が跨いでいたが、あれが線路跡の一部だったものだ。粘土採掘場も閉鎖され、現在はゴルフ場になっている。

(右) 現在の線路跡

